

いきいき女性部通信

事務局 石田 有希子



初の実開催で挨拶をする田澤部長



議長を務めた井沢いね子さん



議案報告をする中嶋副部長、
エルダーミセス部会大黒谷部長

2月25日長慶閣にて、女性部は『第60回通常総会』と、記念コンサートを開催しました。田澤真由美部長が就任して以来、初めての開催。しかも4年ぶりというところで、女性部役員一同、入念に打ち合わせをして臨みました。

総会は滞りなく行われ、いよいよ第二部は、青森県を中心に活動されている女性ユニット『サエラ』さんのコンサートです。「せっかくだから地域みなさんにも楽しんでもらいたい」と、田澤部長のアイデアに

役員が賛同し、地域の方々にも周知。当日は、女性部員や関係者も含めて120名ほどが会場に集まりました。

入場料の代わりとして協力をお願いをした能登半島地震被害支援募金には、75,762円ものお金が集まりました。ご来場いただいたみなさまに、役員一同感謝しています。ありがとうございました。

コンサート中、会場のお客様は、涙を流したり、一緒に手踊りをしたりして、大変盛り上がりしていました。

地域の方は「女性部がよい企画をやってくれて嬉しい。歌声に大変感動した。1時間があつという間だった」と感想を話し、また田澤部長は「みなさんに楽しんでもらえてよかった。これからも女性部らしく、地域に貢献していきたい」と令和6年事業への意欲を話していました。

現在の女性部には、みんなで話し合つて、自分のためや地域のため、JAのために、学習や貢献をしていこうという雰囲気があります。

どんな様子か活動を見てみたいと思う方がいらつしゃれば、いつでも事務局に教えてください◎

事務局 石田（84-3215）



『嫁こさ来い』の手踊りで盛り上がる部員のみなさん



伸びやかな歌声で観客を魅了するサエラさん



高品質生産の剪定を実践し説明する
田澤俊明さん

2月6日、農業振興課は、飛馬ふじ・葉とらずサンふじ剪定会を、五所地区田澤俊明さんの園地で開催し、生産者24名が参加した。

冒頭、田中裕滋課長補佐は、令和5年産りんごの状況に触れ、整枝剪定等による受光態勢の適正化が高品質安定生産につながると強調した。

講師の田澤さんは、フラン病をしつかり見極めてから切り始めることや、風通しや光の通りを意識しながらも、来年を見据えて枝をどう残していくかが大切だと説明。また「葉の枚数をしつかり確保する剪定が重要」と飛馬ふじ、葉とらずサンふじ栽培のポイントを話した。

より高位平準化を



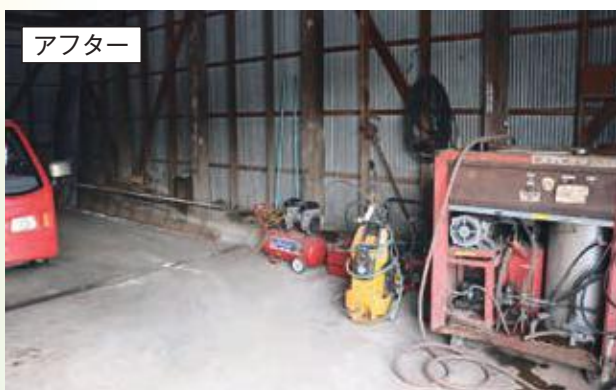
時間短縮 ストレスフリーに



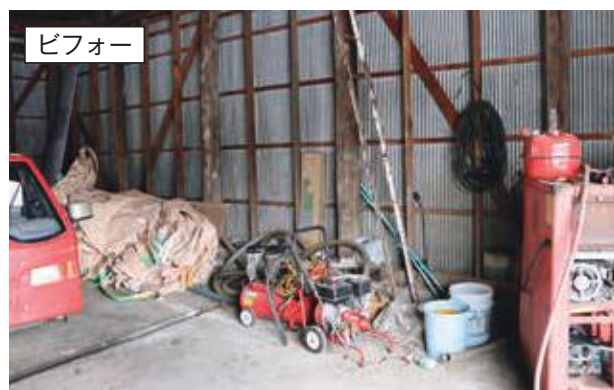
トヨタの講師と2S（整理整頓）をした棚

2月14日、弘前市が長慶閣にてトヨタ式カイゼン生産者向け説明会を開催。後日2月21日、長慶共防のスプレーヤー格納倉庫にて、実践編のセミナーが開催され、トヨタの講師らと共に2S（整理整頓）を実践した。

成田達也さんは「こういうものは勢いが大事。複数人で行えば素早く片付く。昔から保管してある部品は、今のスプレーヤーに合わないものもある。良いきっかけをもらったお陰でサッパリして、今年のりんご作業にとりかかれる」と本年産りんご作業に一層の意欲を見せた。



アフター



ビフォー



その後、役員で一気に片付けが進んだSS格納庫



雨の中、しっかり講師の話をきく参加者ら

2月15日、わい化研究会は坂市の三浦均さんの園地にて、見本樹剪定会を開催した。これは毎年行っている事業で、板柳から講師を招いて実施している。今年は女性向けにも開催してはどうかと役員の提案があり、当JA女性部員中心に参加者を募ったところ、14名ほどの女性が参加した。講師の福士華奈子さんは「その園地に合った剪定を心掛けることが大切」と話し、参加者の山崎奈津美さんは「現在剪定を勉強中。女性の班があり、よかった。また開催してほしい」と充実した表情をうかべていた。

技術を学ぶ



国内外出荷を意識して
産地収量維持を牽引



2月21日、弘前市のプラザホテルで当JA共同防除連合会の幹部研修会が実施された。地域農業の牽引者とも云える共防連。出席した8団体の幹部らは研修会で、全国的に農業の現場でICT技術活用が進められていることもあり、スマホアプリで作業記録や散布農薬管理できる『あい作（NTTデータ株式会社）』の説明を聞いた。また、りんご対策協議会事務局長高澤至氏による講演会を聞き、輸出リンゴの重要性を学んだ。参加した会員らは、使用可能薬剤が減少する中ではあるが、本年から導入する交信攪乱剤コンフューザーの使用も含めて、引き続きしっかりと防除に取り組むと意識していた。



本日は良い情報もらって帰りましょう！と挨拶をする成田陽平副会長

飛馬りんご
販売に勢い！



2月29日、弘前市立相馬中学校にて2学年生徒16名を対象に、JA相馬村職員による『飛馬りんご』の授業を行なった。

これは、4月11日に同生徒が修学旅行先の東京でりんごを販売するために、JAに依頼して販売の手法を学ぶために開催したもの。

4年ぶりに復活する同販売会は、かつては2004年から毎年開催されており、JA相馬村から販売ノウハウの授業も実施していた。今回の授業は、販売に特化した内容で「東京にいる県内出身の方もいる。恥ずかしがらずにぜひ津軽弁で話してほしい」と齊藤指導員からの話を受け、生徒らは実際にハンテンを着て「いつつしゃいませ！ たんげめえよ（とてもおいしいよ）」と声をだしながら、販売シミュレーションを実施した。

本番では試食や試飲を提供しながら、ふじ約100個、缶ジューズ90本を、あもり北彩館東京店にて販売する。飛馬りんごを通して、郷土への誇りが強まれば最高だ。



販売員とお客様役に分かれて実践し理解を深める



売場を再現して目を引く工夫を発見してもらう



笑顔！ 津軽弁！ 堂々と！ 販売を楽しんで下さいね



オセがつかないように丁寧にりんごを扱う生徒たち